

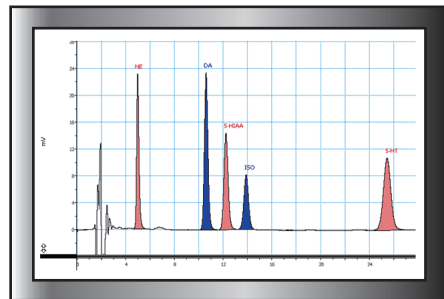
1 標準溶液の測定

例) STD で下記の Area 値が得られた

ISO : 100

5-HT : 200

! 同じ濃度で比率を
求めることがポイントです



2 サンプルの測定



脳 取り出し

目的部位のカット

前処理 ※ 詳細は別紙

サンプル重量測定

PCA 添加

内部標準添加

冷却

ホモジナイズ

※ どのサンプルにも
同じ量を添加

遠心分離

上清採取

pH 調整

フィルトレーション

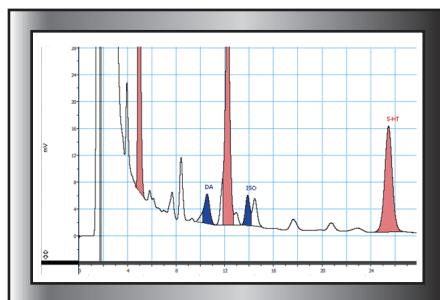
保存

! なぜ内部標準を添加するのか
前処理過程におけるターゲット物質のロス(逆算)するために添加します。
前処理前に 100 ある物質が、前処理後に 50 となった場合、50 から 100 を推測することが目的です。

例) Sample で下記の Area 値が得られた

ISO : 50

5-HT : 400



打ち込み

$$\frac{(\text{Sample}) 5\text{-HT}}{(\text{Sample}) \text{ISO}} \div \frac{(\text{STD}) 5\text{-HT}}{(\text{STD}) \text{ISO}} \times \text{ISO 添加量} \times \frac{1}{\text{組織重量}}$$

例) 100 ng 添加 例) 50 mg

$$= \frac{400}{50} \div \frac{200}{100} \times 100 \times \frac{1}{50}$$

= 8 ng/mg tissue (単位組織あたりの含有量)